



ケゼリン島戦歿者遺族会
 東京都中央区日本橋 蛸殻町2-11
 泉商事株式会社内
 電話 (661) 6511
 振替口座東京93487番
 編集兼発行人 浮田信家

創刊号発刊を祝す

林 幸市

少数のケゼリン島戦歿者遺族の方々と同方面に勤務していた方々とは、はじめて靖国神社に集ったのは、一昨年の二月六日でした。その際、この遺族会はどのようなものになるだろうかとひそかに心配したものでした。ところがそれから僅か一年の短い間に、かの盛大な二十年祭が挙行され、次いで、ルオット島、ブラウン島の戦歿者の御遺族もこの遺族会に参加されるなど次々に拡大強固されるその生長ぶりには全く驚く外はありません。少くとも一昨年はじめて参会された方々にはこの事実をまのあたりにみて感慨無量でありましょう。と同時に今日までこのように築き上げられた幹事、役員その他の涙ぐましき御苦闘には心から敬意を表するものであります。

このたび、このような会の内容充実と共に機関誌が発刊されることになりましたが、これが、ますます遺族会の団結を固め、これからの会の諸目的に邁進されるに当り重要な役目を果たすものと考えます。同方面に勤務していた私達には感激新なるものがあります。その意味において心からお祝い申し上げます。

澄み切った南海の空、輝く南十字星、ポッカリ浮ぶ椰子の島、そしてこれらの島を包む白い環礁、これが英霊の安らかに眠っておられるところでありませう。はるかに英霊も機関誌発刊を喜んでおられることであらましよう。

(本会篤志家)

二十年祭靖国神社における 朝香名誉会長祭文奏上



(4頁参照)

目次

創刊号発刊を祝す	林 幸市	(1)
二十年祭の記録	常任幹事	(2)
石橋湛山顧問挨拶		(3)
鎮魂頌		(3)
環礁とは		(3)
二十年祭々文	朝香鳩彦	(4)
ルオット島の戦斗	名譽会長	(4)
ケゼリン島戦歿者祭神二十年祭祝詞	靖国神社権宮司 池田良八	(5)
ブラウン環礁の戦斗	二十年祭にお供えいただいた方々	(5)
二十年祭における林会長挨拶		(5)
音羽参謀の御最期	松平永芳	(7)
ひとこと篤志家		(7)
ケゼリン島の遺骨収集	現地慰霊碑	(8)
ブラウン島の建地慰霊碑		(8)
此親而存此児		(8)
日本遺族会々長の御挨拶		(9)
ハワイ州副知事弔詞		(9)
ジェームス・ケアロア		(9)
井原高繁氏から両親へ		(9)
マーシャルを想う 土屋太郎		(10)
あの頃のことも 松尾フサ		(10)
靖国神社秋季例大祭に参列して	木村久子	(10)
ケゼリンの砂が届きました		(10)
会計報告	常任幹事	(11)
戦歿英霊の郵便貯金が遺族に 戻る		(11)
寄附者芳名		(12)(13)(14)
雑感 副会長 古賀織之助		(15)
事務局だより		(16)

二十年祭の記録

常任幹事

二十年祭の行われた二月五日(前日祭)、二月六日(当日祭)は全く英霊の御加護によって、東京の二月には、珍らしく晴れ渡ったしかも暖い日でした。

前日祭は予定のように九段会館のホールで行われました。午後〇時三十分開幕早々海上自衛隊東京音楽隊の伴奏によって、参加全員で国歌君ヶ代を斉唱いたしました。舞台の奥は真黒の幕の前に鮮明な大きな日の丸を掲げられ、その前方の白布を覆った祭壇には戦没六千七百余柱(一柱毎に一枚づつの名簿を作りました)の名簿を安置し白菊の盛り花が飾りつけられた裡に行われました。御満足であつたか悲しみを新たにされたか既にハンカチを目にあてられた方があちこち見うけられました感激の開幕風景でした。

古賀副会長の開会の挨拶につづいて〇時四十分から元第六根拠地隊参謀林幸市氏からクエゼリン島の戦況報告、最近の同島の事情紹介を聞きしました。昭和十七年から十八年の暮まで同島にて従軍なされた同参謀がスライドや映画によつての御説明は全員一言も聞き洩らすまいと謹聴しました。玉砕前後の激しかった戦況も想像でき、今更ながら我々の肉身の本当の苦戦の様子が偲ばれました。約一時間に亘る熱心な御講演のあとは、

特に靖国神社からの御提供による映画「靖国の四季」を上映、観賞しました。美しい総天然色におさめられた正月から暮に至る毎年行われる行事を知ることができ、このように鄭重に祀られている様子を知って今更ながら心のやすまれの思いが下されました。ここで、一旦幕が下され小憩の後第二部にうつりました。

舞台には左に朝香名誉会長、石橋湛山顧問、林会長、副会長等遺族会側が、又右には日本遺族会代表外関係各団体の代表者多数が着席しておられました。幹事の経過報告のあと朝香名誉会長、つづいて

会場



て各代表者の献花がありそのあと林会長、石橋湛山顧問の挨拶(6頁3頁参照)、来賓の御挨拶、電報披露があつて第二部がおわり幕がおろされました。

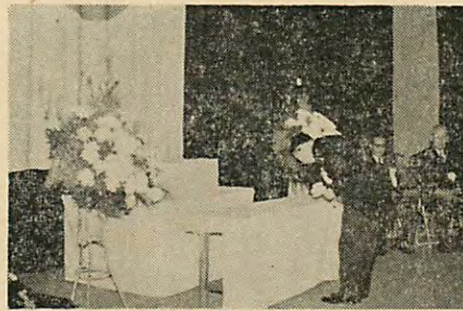
君ヶ代からはじまって、第二部のお待ちしております、次から次に展開された行事が、亡き肉身とむすばれてひしひしと胸にせまり、緊張しきつた二時間半余の時間でした。

ついで午後三時第三部にうつりました。第三部は、多くの皆様おなじみのNHKの名アナウンサー宮田輝さんの司会で行われ、盛んな拍手のうちに幕があげられまづラジオやテレビで御存じの東京放送児童合唱団の合唱で懐かしい歌の数々を聞き

さらには西崎流若葉会舞踊団の民謡おどりが展開されました。若葉会舞踊団の团长内海通吉さんはもと海軍大尉、同期の戦友二名はクエゼリン島で戦死という縁ある人で、すので同期の桜の供養のためとあつて特別の熱演を観せていただきました。そのあと三十分亘り海上自衛隊東京音楽隊五十人の編制による大人数の演奏に、あるときは勇ましく、あるときは静かにその名演に酔うような気もちのうちに四時三十分勇壮な軍艦行進曲を最後に第三部をおわりました。

つづいて午後六時からは、午後行事の行われたホールで「戦場の想い出を聞く集い」にうつりました。林元参謀の司会によつて、成田氏、永石氏、高田氏、柴田氏、根生氏その他同島にて従軍の方々から戦場の想い出をうかがいました。約三〇〇人の方が前記の方々とお話になり、ある方は亡くなられた方のくわしい様子などお聞きとりになされた方もあり感激のうちに午後八時終了いたしました。

花の献花 彦彦侯兄羽音



翌六日当日祭は暁より一点の雲なく晴れ、しかも温度十一度という東京の当日の平均気温からは三度もあたたかい好天に恵まれました。九時前から靖国神社の受付に詰めかけられ十時二十分には、八百余名が拜殿一ぱいに参集をおわりました。予定の十時三十分朝香名誉会長(元朝香宮嶋彦王殿下、第二王子がクエゼリン島で戦死)の御挨拶、靖国神社筑波宮司の御挨拶後、祭典が行われました。特に宮内庁にお願ひし皇宮警察本部の音楽隊の御参加を願ひ、海行かばの奏楽の後式次第に従つてきわめて荘厳に取行われました。筑波宮司の捧げられた祝詞、又名誉会長の奏上された御祭文は4頁5頁に登載いたしました。従つてこの環礁創刊

号を御神前にお供えいただいたらよろしいのではないかと思ひます。

そのあと御希望の方二百五十名三ツ矢タクシー株式会社の御好意により提供された大型バス四台に分乗、皇居桔梗門から参入、約一時間余に亘り皇居の拝観を行いました。これまた宮内庁の格別の御取計いによつてゆつくり拝観でき一同感激いたしました。そのあと更に三ツ矢タクシー株式会社のお取計いにより都内の見物を行い九段会館にもどりお別れいたしました。二日に亘る行事にお疲れの色もなく、英霊の御冥福を心からお祈りして、それぞれお国へお

全員の昇殿参拝も十二時におわりました。本殿に参進、心ゆくまで戦没者の霊をなぐさめ退下のとけき神酒をいただきまたそれぞれ御神札を頂戴して行事をおわりました。

演奏中の海上自衛隊音楽隊



石橋湛山顧問挨拶

私共もクエゼリン島の戦況のことは僅かにきき知っていただけでありますが、遺族の一員として致し方ないのだとあきらめておりました。又このような遺族会が出来るということも夢にも想像していませんでした。

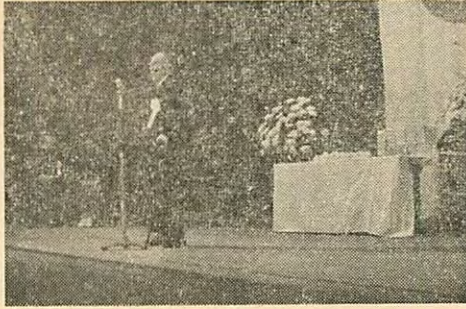
ただ機会があったならば米国のしかるべきところに談判し、クエゼリン島だけにはぜひともいって次男の霊をなぐさめてやりたいと思っておりました。しかしそれも思っただけで、実行は一向段取りになりませんでした。

しかるに今お話のように浮田さんと佐藤さんの非常な御尽力によって、この会を今日催すまでになりましたことを厚く感謝しています。

我々は伴がクエゼリン島で戦死したとき以来、ただこのままではいかん。彼が戦死したことによって、どうか日本の再興を図ることに全力を注ぎ、これによってその霊を慰めてやろうという決心をいたし今日に至っております。

及ばずながら多少のこととはやって参りましたが今後もおわが国の復興平和的復興ということに尽力いたしております。

皆様も御同感だろうと思えますので是非力を協せその方向にお互い努力し、英霊を慰める資と致しましょう。(元首相)



婦りになりました。この間一人の病人もなく、一件の事故もなくすぎましたことは一に英霊のお護りによるものと存じ感謝の外ありません。

三月二日は二十年祭の実施に直接世話役として御活躍下さった地元東京の会員三十名林会長を囲み二十年祭の反省と今後のあり方に



皇居拝観

わかりますようにあのマリンシャル群島中玉砕したのはクエゼリン島だけではなくあと二島即ちルトット島とブラウン島があります。しかもルトット島はクエゼリン環礁の島で、玉砕も同日、ブラウン島もすぐ近くです。又これらの島で戦死なさった方の御遺族からは非加えてくれとの御熱望がたくさん来ております。

そこでこの二島もお誘って会員に加えたらいではないかという事。現在クエゼリン会は六千七百余名ですが、ルトットは海軍だけで二千七十名ブラウンも海軍だけで六〇〇名それに陸の軍方もありますので一万二千人を超えると思えます。

鎮魂頌

折口信夫

思ひみる人の 是るけさ
海は波 高くあがりて
たたなはる山も そそりり
かそけくもなりにしかなや。
海山のはたてに 浄く
天つ虹 橋立ちわたる。
現し世の数の苦しみ
たたかひにますものあらめや
あはれ其も 夢と過ぎつつ
かそけくも なりにしかなや
今し 君 安らぎたまふ
とこしへの ゆたのいこひに

(10頁参照)

環礁

観光バスで都内見物



環状になって内部に湾を抱く珊瑚礁。形は必ずしも円形と限らず変化に富んでいる。これは環礁の土台の珊瑚礁は最初附着した当時の火山島の形によるためと考えられる。即ち今環礁になっている珊瑚礁もかつては火山島の周囲に附着していた。ところがその中央の火山が徐々に沈下し、珊瑚礁は次第に上方に成長したため火山島の海面下に没し去るに及んで、ついでに今日のように環状になったのである。太平洋中にはマリンシャル群島その他、大小の環礁のみの群島が少くない。(平凡社「大百科事典」より)クエゼリン、ルトットはクエゼリン環礁、ブラウンはブラウン環礁中の島である。

クエゼリン島戦没者二十年祭々々

名誉会長 朝 香 鳩 彦

謹んで海軍中将秋山門造之命以下五四三八柱、陸軍少将阿蘇太郎吉之命以下一二七三柱のみ霊に申上げます。

あなた方が、その任地クエゼリン島において、壮烈なる戦死を遂げられてから、早や二十年の星霜が流れました。

吾々は大東亜戦争中、単に太平洋方面において戦死という公報を受けたのみで、家族大部分の者はあなた方があのような戦死を、遂げられたことを知りませんでした。

しかし昨年夏クエゼリン島戦没者遺族会を結成し、会長はじめ役員諸君の異帯なる努力により当時の戦況を承知して、あなた方全員の後後を知ることが出来ました。ここに其の二十年祭を行うに至った次第であります。

今日は北は北海道網走から、南は沖繩宮古島にいたる全国都道府県から、八百余名の遺族があなた方に対面のため参集しました。

昨日はあなた方が奮戦されたクエゼリン島の事情や戦況を映画、スライド、講演、又玉碎直前あなた方とともに戦はれた戦友から、審さに当時の模様を聞きました。さぞ残念であったでしょう。口惜しかったことでしょう。友軍の来援を待って、思うさま敵に報復したかったであります。

私たちは一隻の軍艦、一機の飛行機の援軍なく、全員戦死のやむなきに至ったと聞き、誠に残念であります。

其後戦況は益々我国に不利となり、遂に昭和二十年八月十五日、終戦の詔勅を拜するに至りました。

我が国は其国土の多くを奪はれ軍備は全廃させられ、国民はかつて経験したことのない幾多の困難に直面し、一時は全く途方に暮れましたが、その後臥薪嘗胆によってどうやら秩序をとり戻し、国威も戦前に劣らぬ程に回復し、本年には「オリンピック」東京大会が開催される予定となりました。

又国防力においては外敵に対する防衛力も誕生し、独立国としての形が、ほぼ整うようになりました。しかしその内容に至っては、まだまだ幾多憂慮すべき点が潜在して、殊に精神方面に於てであります。



冬 靖国神社御本殿

依つて吾々はあなた方が戦地から国元によせられた多くの御便りを拜見して感じましたあの尊い精神力、殊に戦死によって頭はされた大精神、之をもって、日本の再建につとめることを誓います。只今から一同本殿に参進し、喜んで御対面いたします。就いては皆様に御報告致しますのには、此度遺族には遺族援護法や恩給法によって国から保護され又近く戦死されたあなた方に対し叙位、叙勲の御沙汰がある由であります。今日こうして元気に靖国神社に参りましたことを喜んで下さい。今日来られなかった遺族の方々も来年は必ず靖国神社に参拝に来ると御依頼がありまして、これを御報告いたしました。ここに本会遺族全員を代表し、蕪辞を捧げて祭文といたします。

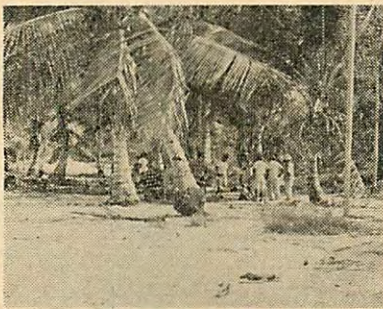
昭和三十九年二月六日
クエゼリン島戦没者遺族会
名誉会長 朝 香 鳩 彦



ルオット島の戦闘

ルオット島はクエゼリン環礁の北端にあつて、長さ幅とも一、一軒、クエゼリン本島からは約五十哩の距離にある。堤道で続いているニムル島とともに、マール群島方面における航空の中心基地として、最重要な島嶼であつたが、その位置が、アリック列島中の一諸島であつたため、クエゼリン本島とともに敵の攻撃に對しては、比較的安安全全なものであると考へられていた。

従つてルオット、ニムル両島には防禦兵力としては陸軍部隊は存在せず、クエゼリン本島に本部をもつ海軍第六十一警備隊のルオット分遣隊約四〇〇名が駐屯していたにすぎずその他は航空隊員設置隊関係員等であつて地上戦闘の戦力として極めて貧弱な状況であつた。



ルオット島の椰子林

萩原部隊友村班(設置隊関係員) 約 八〇〇
只木部隊(航空廠関係員) 約 二〇〇
軍需部関係その他 約 二〇〇
計 約 二九二〇
以上の中海軍々々が約一九〇〇軍属が約一一〇〇であつて、軍属中には七〇名の朝鮮人が含まれてゐた。その兵力の総指揮官は第二十四航空隊隊司令官山田道行海軍少将であつた。

ルオット、ニムル諸島は三十日以來連統猛烈な航空攻撃並びに艦砲射撃を受け、三十一日中には島内貯蔵の魚雷、爆弾、燃料及び弾丸等殆んど全部が焼失し、三十一日午前六時三十分以後ルオットとの通信連絡は杜絶した。翌二月一日の敵艦砲射撃によつて島はその形を変え、防禦陣地の不完全と相俟つて、所在の我が兵力の戦死傷極めて多く、敵の上陸までには殆んど大部分が死傷するに至つた。

二月二日午後艦砲射撃の掩護の下に敵はまづ離島に上陸、次いで海岸を渡渉して本島に上陸を開始したが、我が軍の抵抗が微弱であつたため二日中には、総ての組織的抗戦は終息するに至つた。

米軍来攻当時ルオット、ニムル両島及び附近の離島所在の我が部隊は次のとおりであつた。

第六十一警備隊ルオット分遣隊 約 四〇〇
山田部隊(航空隊関係員) 約 一五〇〇

クエゼリン島戦没祭神二十年祭祝詞

齋主靖国神社権宮司 池 田 良 八

掛まくも畏き靖国神社に、合祀られ給ふ神靈等の中にクエゼリン島に玉と砕けて身退りましし海の軍人海軍中将秋山門造の命を始め五、四三九柱、陸の軍人陸軍少将阿蘇太郎吉の命を始め一、二七四柱命等の神靈の御前を、宣別けて齋主権宮司池田良八謹しみ敬いも白さく。

汝命等はや曩の大戦起るや畏き天皇命の任の随に荒汐の汐の八潮路はるかなる南の重要き守護りのクエゼリン島に伊征き渡りて只管に祖国の榮えを祈りつつある中に戦局は日に由々しくなりて遂に昭和十九年二月潮の如く大海原ゆ荒鷲の伊群如す大空ゆ押寄せ来る仇を迎いてひるみ給はず島の保聖を生命の限り守り抜き祖国を襲う仇浪をこのクエゼリンに打碎かんものと夜昼分たぬ激しき戦の中に敵の雄呼び踏踏び防ぎ戦しも戦勢を復すに術なく、あはれ陸海の軍人ごとと椰子茂る南の島に玉と砕け給ひし偉はしき命等なるかな。故散りても花も春廻り来れば又咲き出づるも汝命等と現世に再び相見るよしもなく思い奉るだに既たく痛ましき極みにこそあれ。況してや思い設けぬ敗戦の為汝命等の高き尊き功績も免もすれば群雲に覆はれて世に現れ坐さぬ過ぎ

来し幾年月をしふり返へれば口惜しき限りにはあれ。汝命等が神上り給ひしより二十年の春を迎えて今更に芳はしき御功はサンゴなす八十島めぐるクエゼリンの八尋の海もまさやかに世に輝き亘り後の世かけて、仰がれ給う中に竹の園生の御縁もかしこき、朝香鳩彦卿を始め御遺族等又奇しきゆかりの軍の友垣等には如何ともして汝命等の神靈を和め奉らんものとして願ひ来し事の叶いて二十年の記念深き二月六日の今日しも北の果ゆ、南の隅ゆ遠く近く国内普くより大前も狭らに参集い汝命等が現世に坐せし日の面影思い浮べ偲び奉りつつ御饗御酒種々の味物を捧げ奉り戦場の明暮共々に歌ひし音楽も奏で奉りつつ明き清き心の一筋に神靈慰めの御祭懸に仕奉る状をあなたれしと相嘗に語り聞食し給ひて神靈等はや今も往先も、この神社に守らかに鎮りまして汝命等が生命捧げて守給ひし皇国の将来を浪風立たぬ浦安の国と立栄ゆべく守導給ひ、御遺族を始め友垣等の上をも守幸給ひて各も各も汝命等が遺し給ひし精神を受け継ぎて家も整え世の為皇国の為忠に貞かに仕奉らしめ給へと謹しみ敬ひも御祭奉らうと白す。

昭和三十一年二月六日

ブラウン環礁は、クエゼリン環礁の西北西三六〇度運にあり、略々円形をなし、島は東側の礁脈上に多く、このうち大きいのは北方からエンチャビ島、アンモン島、パリー島、ブラウン島などである。ブラウン島は西部に高さ約五米の小丘があるほかいづれも二米ないし四米の高さ、島の長さは四、七軒、幅〇、三軒という小さい島でやし樹や雑草がよく茂っている。

ブラウン環礁の戦闘

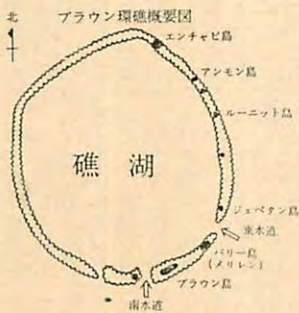
ブラウン環礁は一月三十一日以降二月十八日まで殆んど連日敵航空母艦機の空襲を受けたが、二月十八日午前三時三十分以後敵の艦砲射撃を受け、午前七時三十五分敵攻略部隊は東水道より礁内に侵入し概ね爾後一昼夜に亘る猛烈なる艦砲射撃の後翌十九日早朝エンチャビ、二日ブラウン及びパリー(メレン)の各島に對し上陸を強行した。当時ブラウン全環礁に配備された兵力は次のとおりであった。

一、海軍

第六十八警備隊 約一、〇〇〇
第二十二航空戦隊基地員 約 三〇〇

設営隊関係員 約 六八〇
計 約一、九八〇

二、陸軍
海上機動第一旅団の主力 約二、〇〇〇



以上合計約三、九八〇名であった。同島の防禦指揮官は海上機動第一旅団長西田祥美陸軍中将であった。

而して同環礁配備の第六十八警備隊は一月三十一日現地に進出、又陸軍海上第一機動兵団もまたこれと略同時期に進出したものであって、未だ現地の状況に習熟せず、防禦陣地の構築も未完成のまま敵の来襲を迎えたものであり、全員克く奮戦したが殆んど全員戦死するに至った。

斯くしてエンチャビは十九日、ブラウン、パリーは二十四日敵に完全占領せられ、この期間環礁内の兩余の小島嶼は完全に敵の占領するところとなった。

二十年祭にあたり左記諸賢から御鄭重な御供えをいたさました。厚く御礼申上げますとともに会員皆様に御紹介いたします。

厚生省援護局殿(旧陸軍関係)
同 殿(旧海軍関係)
日本遺族会殿
石川県遺族連合会殿
日本郷友連盟殿
借行社殿
水交会殿
全国戦争犠牲者援護会殿
東京都共同募金会殿
白桜会殿
海兵第五十期級会殿
海兵第六十二期級会殿
出光興産株式会社々々長殿
保好舎印刷株式会社々々長殿
寺田 健殿

広島県安佐郡 植田 操殿
青森県西津軽郡工藤福蔵殿
埼玉県南埼玉郡島田 登殿
千葉県北条市 白神立生殿
石川県小松市 林 庄三殿
岩手県盛岡市 星川クマ殿
鹿児島県 山田フジエ殿
同 殿



二十年祭における

林会長の挨拶

私は遺族会長の林茂清でございます。時間がございませんで、云いたいことの要旨だけを話させていただきます。先づ始めに私は御列席の御遺族の皆様と同じく遺族と致しまして昭和十九年二月中旬にお前の次男は内南洋クエゼリン島で戦死したという公報を頂きました一人でありませぬ。今日この二十年祭を行います間に、私の頭に映じた実感を申し上げます。玉碎戦死の公報は受けましたが、どこでどういう風に死んだのか、果して死んだのであるか、どうか分りませぬ。その分らないままで月日を過している中に、その年の十一月中頃だったと思いますが、遺骨を渡すから受けとりに来いという通知を頂きまして私共は住居の関係上東京の護国寺で遺骨の伝達をうけました。恐らく皆さん方は御郷里で、それぞれお受け取りになったことと思ひます。



林会長の挨拶

遺骨と申しましても小さな箱に国旗が入っておるだけで、それが遺骨として渡されましたが、この事は別段不思議ではありません。従来海軍は海上で犠牲者を出した場合に通常遺骨は上りませぬからそういう風にして行はれておったのでございませぬ。それと同じでございませぬから我々として別にいふことはないのでございませぬが、その遺骨の伝達を受けまして、それぞれの遺族は個人もしくは団体で葬儀をすませた事と思ひます。そういう風な処理はされましたが、依然として何処で、どういう風にして戦死したのか判りませぬ。そのままだんだん月日がたちまして終戦になり、終戦後の又或る歳月をへまして、靖国神社からお前の息子を合祀したという通知を受け、始めて、ああ戦死者の中に取扱はれるようになったという事が分りました。靖国神社におまつりいただいたというので、それからには神社にお詣りするのことにしました。その中に陸海軍の恩給の復活が起りまして我々遺族にも扶助料とか遺族年金というものが支給されるようになりまして。しかしクエゼリン島を中心とした戦斗なり又事情は少しもわかりませぬ。靖国神社合祀の通知を受けた翌年の二月六日からある遺族はだんだんお詣りする

るようになりました。その様子を見たここに居る常任幹事の佐藤さんはこれは何とかして遺族に呼びかけてこれでごしよにお詣りしたという考えをおこされておりました。生省、水交社或は陸海軍の元援護事業にたづさはつておられるところに渡りをつけまして若干の遺族がわかりました。

その翌年から、それらの遺族に通知をして二月六日にお詣りするようにして下さったのでございませぬ。がしかし依然戦況等分りませぬ。その時先程説明をして下さいました元の艦隊参謀の林さんあたりを中心にしてそういう戦況なり事情を知っている方松平さんとか長谷川さんなどの御尽力で段々具体的に島の事情や戦況がわかるようになりまして。

そうして昨年の二月六日の参拜者が集まると昨まで大体先程林さんから御話下さいました通りの状況が我々に断片的ながら頭に入るようになったのでございませぬ。

その中でも昭和十九年の一月三十、三十一日のクエゼリン島に対してアメリカが行ったあの包囲陣つづいて一日二日三日四日は悪戦苦闘と申しますか、この上ない壮烈無比の戦斗でありまして、一日の日などはとうとう敵の大部隊が上陸を完了することになりました。

その晩秋山司令官は、強固な決心で最後の兵まで、またこの島に増援隊が来るまで守りぬくという決心をなさいましたが、不幸音羽参謀と共に陣頭指揮に出かけられる直前敵陣のため壮烈な戦死を遂げられたと聞きます。その晩あたりから殊に戦斗が苛烈となり

克く戦いましたが、とうとう二日三日四日とこの三日間、死斗に死斗をつづけて、段々島の南方から北においやられて、もう足腰のたつ大部分がやられてしまつたのでございませぬ。それで四日の午前十時には、刀折れ矢尽くという状況となり首脳部は皆自決してしまいました。陸軍も連日の悪戦苦斗で段々寡くなつておりますが幸いに阿蘇隊長がまだ現存しておりますので、前にのべた首脳部の自決直後生きのこつていたもの皆引っさげて自ら陣頭にたち、文字どおり肉弾突撃をして大部分が壮烈な戦死を遂げたのでございませぬ。

明けて翌五日六日に到り敵は完全に占領しました。生き残つていたわが負傷兵また生命を保つていたものも耐えかねて、自刃をしたりと、敵陣にとびこんで六七一三名という軍人軍属ごとく散華したのでございませぬ。

この悲壮な状況を私共は昨年の二月六日に聞きました。それで何とかして、これらの英霊を慰めるために遺族会でも起そうぢやないかということと相談いたしました。皆同意でございますが、二三年前からこのことは佐藤さんが手をつかれたのでありますが、玉碎者の氏名、その遺族の住所、氏名とても調べはつかん之はもう不可能であるときらめております。

ところがここに常務をやつて下さつておる浮田さんを見つけた。この人は終戦まで海軍省人事局の課長をやつており、戦後引きておつた関係で、十分自信はあつたのでありませぬ。よし一ツや

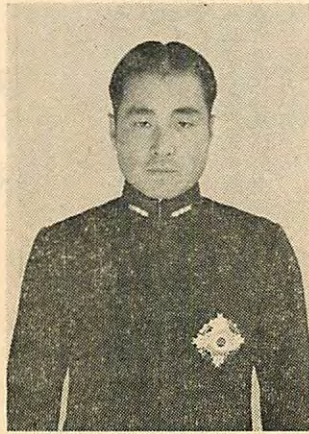
つてやろうという決心をつけられたのでございませぬ。ところがその事務を扱う機構もなく、資材も何藤の両君が自分の頭と手足を使ってこの基礎を作つてくれたのでございませぬ。そうして昨年の二月六日から今日まで本当に言葉でいいつくせない苦労をつくして之を結成させたのでございませぬ。今日この祭典はこういふいきさつから起つたのでございませぬので、寒いときでございませぬが、二十年前に、この尊い犠牲者が玉碎した前を思い起されまして何うか存分に英霊を慰めていただきたいと思ひます。

なお本会は英霊を慰めることが第一の目的でございまして外に何もございませぬから、この上ともこの心をもつてつづけたたいと思ひます。それのため本会といたしましては、成るべく早くクエゼリン島に残しておる遺骨を収めて祖国に連れ帰ることをしてやりたいと思ひますから、これを関係当局にお願いして、一日も早く実行に移したいと思ひます。どうか何分の御援助をお願いいたします。それが一つともう一ツお断りいたしましたのは六七一三名の英霊の中に三百幾柱の朝鮮の人名が入つておること

でございます。このお祭りには勿論一しよにおまつりはしてありますが、国情の関係でそれら遺族とも連絡はとれませぬ又我々の子弟と異なり日本の色々の恩典に浴することがございます。そういう実情でございますが、国情が正常化した暁には何とかしなればならぬことで本会としては十分尽力い

音羽参謀の御最期

音羽参謀は昭和十八年十一月中旬第六根拠地隊の戦務参謀兼通信参謀として任地クエゼリン島に着任された。まもなく十二月上旬、熱帯地特有の「デング」熱に罹られ病床につかれたが、約半月の御療養の結果恢復された。以後司令部作戦室で第一線の戦務を執られた。年明けて十九年を迎えるや、一月末敵機動部隊の空襲を受け、つづいて航空又海上からの攻撃日増しに苛烈となり、ついに三十一日全員戦闘配置に就くにいたった。音羽参謀は秋山司令官、平田先任参謀などとともに、第六十一警備隊作戦防空壕内で作戦指導に当られた。



音羽参謀

とき隊員士気の沮喪を慮られた音羽参謀は司令官の戦死を知らせないよう命ぜられたため司令部職員以外のものはこの事実を知らず、各々もちばで善戦をつづけた。このまま二日と三日はその防空壕で戦務をとられたが四日になり午前八時頃敵の戦車の近距離射撃によって壕の耐弾壁を通じた砲弾のため左胸部を負傷された。鮮血は第三種軍装を通し滲み出たとき先任参謀が「音羽参謀大丈夫ですか。軍医長直ぐ傷の手当を願います」と早口に命ぜられ、軍医長は早速治療に当ろうとしたが音羽参謀は「手当はよろしいから、このままにしておいて下さい」とその治療を辞退され、又或るとき状況に悲感し、総員自決の時と見た某が「先任参謀！もう駄目です」この苦しいさげび声に対し、音羽参謀は「馬鹿なことを云うな。たとえ我等は死んでもここを守らなければならぬのだ」と大声で怒鳴られたため、壕内のも突如に元気を盛りかえした場面もあった。午前十時頃敵は司令部作戦防

空壕の中にガス弾らしい臭気及び煙の出る砲弾を交え新手の攻撃を加えて来たので遂に平田先任参謀から「では皆様お願いします。軍医長は一番最後にして下さい。士官の方は残して下さい。下士官、兵は聯隊長どうぞ」と達せられた。最後は士官か自決、下士官兵は阿蘇聯隊長が指揮し敵中に突入すべく、予め申合せがあったのであろう。

ついで音羽参謀から「先任参謀、弘安の昔、蒙古の軍大挙して博多に襲来し来た際、龜山上皇は、「身を以て国難に殉ぜん」と、熱烈なる御祈願を伊勢の大廟に捧げられ、今上陸におかせられても、終戦前後の国家苦難の砌り、国民の末永き将来を御祈念あらせられ、御一命を賭けて、幾つかの重大なる聖断を下し給うたのであります。この外に、わが国の史上には、国家有事の際に、上御一人が、御身を犠牲にして国家を、そして国民を守護せんものと、御挺身になられた事例数多いのであります。これこそ、わが皇室の御伝統なのであります。

ひとこと 松平永芳

更に最近の例を觀ますに、支那事変に際し、明治大帝の御孫北白川宮永久王殿下は、御齡三歳と一年にも満たぬ王子、王女を遣して、蒙疆の僻地に御戦死になり、大東亜戦争に於ては、軍令部総長伏見宮博恭王殿下の第四王子伏見博英伯が、四人の幼い方々に先立ってセレベスの空に散華され、同じく明治大帝の御孫、朝香大将の宮殿下の第二王子音羽正彦侯も亦、クエゼリン部隊の陣頭に立って玉碎されましたことは、私共本会会員が身近かな事として、よくよく存じ上げている所であります。そして、その結果、本遺族会は、音羽侯の父君朝香鳩彦様を名誉会長として戴いている次第であります。わが日の本の伝統から考え、此の事には、甚だ重大な、そして貴い意義があると申さなければなりません。

こう言った、わが国柄と言う面からも、十二分に考察致しますと、過去の総てを憎悪し、万事打算によって律した戦後の妄説、「玉碎即犬死に論」にも、自ら鋭い批判を加えざるを得ない事を知るのであります。

以上で私の挨拶は終了しますが、最後に遺族の皆様方に特に申しあげたいことは、只今申したとおり本会は佐藤君が御起し浮田君が築き上げて、このように出来上りましたが、二人の犠牲的奉仕は私の口などでは到底あらはせないこととあります。一例を申し上げますとここに御祀りしてある七千近い戦没者のカードであります。これは一文の資力もない、何の機構もないので、廃紙の裏に自分で線をひき、原本のカードを一人一人写しとりまして二月から三、四、五、六月の中頃までに家族を総動員しとうとう人手にかけずに浮田一人でやりあげたのであります。又佐藤君はいよいよ之が出来るということがわかってからそれぢややろうというので七千近い遺族に連絡したり色々の印刷物をした費用は皆佐藤君個人でこれを処置されました本当によくやっておりますのであります。

本来なれば感謝状でもさしあげて、記念品でも贈呈いたしたいところですが、この二人ともそういうことをしたら大変でございます。そんなことは毛頭思ってもおりませず又もつとつと崇高な国家的奉仕ということに徹した人でもありますからそういうことはいたしません。どうか皆さんもこの心持でこの二人に感謝し接していただきたいと思います。これをもちまして私の挨拶いたします。

(終り)

クエゼリン島 ルオット島 ブラウン島 に対する

遺骨収集 現地慰霊 建碑 について

常任幹事

本会は、その会則にも明記されているとおり、みだしの三つの項目は、是非とも実現したい。最も大きな目的であります。

昨年九月八日日本会篤志家の御出席を願ひ、本会の役員及び航空会社々員を加へ二十名が集つて、この具体策を研究討議しました。

この結論に従つて九月二十一日林会長から、神田博厚生大臣あて「玉碎地に残留の遺骨収集並びに現地慰霊・建碑等につき御願の件」といふ陳情書を提出しました。

その日古賀副会長はじめ常任幹事及び幹事、監事十二名厚生省に出頭し、村岡援護局業務第二課長の御案内により板垣援護局長、鈴木村援護局長おわりに徳永厚生省政務次官にそれぞれ長時間お目にかかり、本会の念願しているところを陳べて厚生大臣へ陳情願出の趣、是非とも達成叶うよう願ひました。常には無口、遺憾勝な婦人幹事の方もこの日はかりは心の底から心境を訴えられました。その熱は当然聞かれた立場の方々の胸を打ち、なしうる限りの努力をする旨お答えいただきました。

我々の陳情というのは次のとおりであります。

太平洋戦争中昭和十九年二月玉碎の巴むなきにいたつたクエゼリン島、ルオット島及びブラウン島については戦後全く未処理のまま放置され今日に至りましたが、遺族としてはこのまま放置を待つて認める理由によつて、さらにそのおとにのべる要望を是非達成されるよう御願ひしますと口火を切りました。

次に昭和二十九年一月政府派遣団が南方八島に派遣され遺骨収集送還、慰霊及び建碑の行事が行われたが、この派遣団に関する交渉中、マージナル諸島、ギルバート諸島における行事は米国籍の了解を得るに至らなかつたという理由によつて除外され、以来今日まで全く放置されてある。このため本遺族会は是非共早急にこの行事を行わねばならないという理由であります。そこで要望の第一は、まづ政府において至急米国籍の了解をとりつけ、政府派遣団を派遣し、国としてこれら残された諸島に対す

る遺骨収集、送還、慰霊及び建碑の行事をとり行つていただきたいということのべまします。

第二は万が一実現困難或はその時機未詳等の場合本会としては、遺族の抱金或は個人の自弁によつてもこの目的を達成したい。この場合次のスケジュールを考へているので政府においては米国籍にこの計画の了解をとりつける等便宜を供与せられたいという申入れをいたしました。そのスケジュールと

一、実施時機 昭和四十年三月下旬

二、派遣員 五名

三、行動の概要
第一日 東京発マニラ經由グワム島着(民間航空)

第二日 グワム島発、トラエック島、ポナペ島經由クエゼリン島着(米軍用機による)

午後一時、遺骨収集作業、建碑、慰霊行事旅行。

第三日 ルオット島、ブラウン島慰霊行事。(米軍舟艇航空機を期待する。)

第四日 クエゼリン島発グワム島着

第五日 グワム島発東京帰着

備考 第二日又は第三日夕刻米駐留部隊のホールを借用し二十年祭行事の八ミリ映画テープ、オリンポック映画

により英霊をお慰めし、かつ現在在島の人人々に観賞させる用意があります。

四、経費 一、名五十万円と予想する。

という内容であります。その後数回に亘り外務省アメリカ局に出向き便宜供与方の依頼を行ひ、一方厚生省援護局長からも外務省アメリカ局に対し、関係国に対するこの陳情実現の斡旋を申入れ、外務省また米国外務館に連絡をつづけて下さいました。

更に十二月二日石橋湛山顧問が開会中の国会に神田厚生大臣を訪問

・此親而存此児・

遺言状

親に先んずるも国難に殉ずるは至孝と存じ候。葉がくれの名に於て、家名を汚さず、軍人らしく散りたるものと思し召下さるべく候
昭和十八年十二月十八日
英男より

御両親様

海軍少佐。五三二航空隊。

父井上作次郎の現住厚木市父よりのはなむけ 当時24才

英男よ。貴様の決心覚悟は立派だ。それでこそ軍人の本分は尽され、忠孝両全の道を究うされる。父は喜んだり云えども尚頑健、老軀に鞭打ち、鋳業報国に邁進するであらう。今や時局重大の秋一家を挙げて奉公の誠を捧げ得るならば身はいづくの露の命と消えるとも更に悔なしではないか。安んじて征け。勇躍して征け。

ね全く同じ趣旨の希望を申入れられ、大臣はこれを外務大臣に話される場面もありました。

クエゼリンが現在重要な米軍の基地であり、ビギン島に近い危険地域だけに簡単ににはゆかないと思ひます。しかし米国外務館もこの陳情はよく了解し、十二月中旬本会にその指令を仰ぎ、回答を待つて居るという状況であります。

一方昨年の二十年祭の報告や会計報告又本年二月六日の計画など環礁第一号にのせて、おそくも十二月一日には発送する予定にしておりました。しかし現地慰霊にいたしましたので米本国の回答を待たず発送することにすすめました。

そこで五名という派遣団の選定ですが御意見を至急およせいただきたいと存じます。五十万円負担せでも行くという会員があれば幸せないときどうしたらよいか、ひろく御意見をうかがいたいと思ひます。会としても行つて下さる方にはできうる限りの御援助もしたいと思ひます。そのため全会員からなし得る限りの寄付金を募る必要もあらうかとも思ひます。

米国籍の意向も判らないうちに早すぎた御相談かも知れませんがOKが来れば早速やらなければなりません。

至急皆さんの忌憚ない御意見をおよせ下さいますようお願いいたします。

行つて下さる方がない場合又本部一任の御意見多い場合、本部には一案ありますので、何としても実現したいと念じております。

日本遺族会々長賀尾興宣殿の御挨拶

本日ここに、クエゼリン島戦没者二十年祭が挙行されますにあたり、一言御挨拶を申し上げます。

願ひますれば、大東亜戦争間、アジアの海陸にわたり戦没された方々の数は、二百余万の多きにのぼりますが、皆それぞれ任務のもと、等しく殉国の犠牲として身命を国に捧げられたものであります。然しながら、それらの中

にあたるクエゼリン島は、遠く内地の基地から、隔絶した孤島として、その守備隊は当初より孤立無援の環境を約束されたものであります。優勢な米軍の進攻を見るや、同島守備の陸海軍将兵六千七百余名の方々は、寡兵よくこれを迎撃して、遂に文字通り玉砕散華されたのであります。誠に稀れなる偉勲と云わねばなりません。

戦後、戦争の惨禍を憎むあまり国も国民もややもすれば尊い殉国の犠牲者や、その犠牲的行為を忘れ勝たてておりました。このような時代において、クエゼリン島戦没者の御遺族の方々が、毎年玉砕の日を卜して靖国の社頭に、ひそかな肉親としての祈りを捧げ続けられたことを承り、今更ながら心の痛いのを覚えます。

ただ最近国における戦没英霊の顕彰、その御遺族の援護の措置も漸く進み、国民もまた、殉国の犠牲者に対する認識を新たにすると、気運となりつつあります。かかる

とき、たまたまクエゼリン島玉砕

満二十年の日を迎え、本日、同島戦没者遺族会主催のもとに、多数の御遺族が参集されて、極めて厳肅な祭典をとり行われましたことは、真に意義深く在天の英霊も定めし御満足のことと存する次第であります。

私は、今後更に御遺族方の処遇の向上を図るとともに、国を挙げて戦没者に深い敬仰と感謝を捧げ且つその精神を日本再建の営みのうちに具現することこそ、私共の英霊に報ゆる道であると確信いたし、皆様方とともに一層の努力を誓うものであります。

終りにのぞみ、英霊の御冥福と御遺族皆様方の御多幸をお祈りいたし、御挨拶といたします。

昭和十九年二月五日
日本遺族会々長
賀屋興宣

故横山由人殿
(芝補・長野県)より
次男 功 君へ

拝啓 其の後はしつかりと勉強をしておりますか。母やおぢい様の言う事をよく守れますか。戦地の兵隊さんの事を思えば勉強や家の用事など平気な事ですか。からしつかりやらねばいけません。海軍志望の由ですが、横着をしていると父が賛成しませんよ。どんなことでも少年らしく真面目にやらなければいけませんよ。

海軍二等兵曹 井原高繁氏から郷里の両親にあて
(昭和十九年一月二十日)

父母上様にも昭和十九年の新春を目出度く迎えられた事と思ひます。御慶申し上げます。

南太平洋のクエゼリン島ロット島ブrawn島で戦死された方々の二十年祭を行うに際して私達は心から哀悼の意を捧げます。

過去に行われたあのいまはしい戦争で、幾多の尊い生命と致命的な打撃を受けた日々を思い乍ら、肉身の方々の見守るうちに靖国神社で永遠の眠りにつかれる由を承り、安らぎを覚え、今更にも決してこのような悲惨な争いをひき起さず又巻き込まれないよう祈りそして努力しなければなりません。御両親や御家族の胸の中に今なお多くの想い出と共に強く長く生きていこうと思ひます。

友人であるあなた方に対しハワイ島民の全てが、これから先長い歳月におけるあなた方の御健康と御幸福をお祈りしています。

萩原金治郎氏(本会幹事)の御好意と、ハワイでの慰霊祭に列席させていただいたことを感謝します。氏の努力により、われわれの友情が一層強く、固く結ばれましたが、相互理解のため更に努力することを御約束します。

ハワイ州副知事
ジェームス・ケアロア

降って私もささやかながらも戦地に第二回目の正月を迎え心身共に益々張切つて日夜重任についております。何とぞ御安心下さい。当地も愈々苛烈なる戦場と化しつつあり、敵の空襲も従つて当然のこととはなりました。「ポイング」とか「コンソリデーテッド」とかおかしな名前の奴が大きな図体を「ウォンウォン」とうならせながらやっています。見たところ恐ろしいようですが、目玉まで青くなっている敵サンの爆撃は盲爆も甚だしいものです。何処へ落さうとしていいのか想像もつきません。先日も本島上空にやってきました、バラバラと落とされた迄はよかったです。数千米も彼方の海上に二、三十発も「ドカンドカン」と物凄い水柱の林を造って逃走しました。まったく魚こそ迷惑な話です。思いもよらぬ爆撃に腹を割られたのだから、それかといって油断も出来ませんが。

常に万全の備えと、敵襲に対する注意力の続く限り敢えておそるるに足りません。

十二月迄は戦地とはいへ敵機の来襲もなく、気候は良いし、豊富な物資で悠々たる戦場生活も内地勤務と大差ありませんでした。然し当今では全然違つて来ました。愈々腕と腕との一喰うか喰はれるかの戦争です。勿論、軍人として本当に生き甲斐のある、又我々話人の当然の仕事が目下くろひろげられんとしています。

人間と生れて、かかる重大なる環境に求合させた貴重な修練を得られる私は最も幸福と思つております。もはや私共には生も死もありません。唯運を天に任せ敵撃滅に生きるのみ。

もとより郷里の皆に会いたいと思ふこともないではありませんが考えて見たところ思ふだけ損な話。

結局行く所までしか行かないものです。私はたとえここで倒れるとも本望です。五尺の体がたとえ一握の灰となつて帰つても魂は永遠に第一線に踏みとどまり、外敵を撃つて止まん覚悟です。

私の最後は思ふ存分敵をやつた後、笑つて悠々の大義に生きるつもりです。戦場の薄暗い灯の下で、こんな事を書きましたが、決して御心配下さいませぬように。まだまだ本島の護りは鉄壁です。

唯、輸送便の少ない昨今、少し急いでつもらんことを書いて見ただけです。まだまだ船便のある毎にどしどし手紙を書きますから、御安心下さい。

では親類御近所の方々にもよろしく。父母上様にも充分御身体に注意して下さい。ことに春ともなれば百花咲き乱れ、気候もよくなるでしょう。こしはらくの寒冷、充分御自愛の程祈つてやみません。

昭和十九年一月二十日
父母上様
高 繁 拝

発信人第六通信隊勤務 愛媛県川之江市出身。当時20才。

マーシャルを想う

土屋 太郎

哨戒機からの「敵空母発見」の報があったその時からの連日連夜の爆撃、敵巡洋艦や駆逐艦の出現を見たときには、われわれも悲愴な覚悟をし、死を決しました。

マーシャル方面への本格的な攻撃が始まったのは昭和十九年一月三十日早朝、敵の艦載機が続々と姿を現わしたときからです。クエゼリン、ルオット両島は、私たちがいたウォッセ島から飛行機で一時間程度の近くにあり、私もその地へは何度か訪れましたが、二月六日クエゼリン玉砕を敵側放送で聞くまでは、ウォッセの激しい攻撃で、隣島が占領された後もこの地への砲撃は止まず続けられました。

あの頃のことども

長崎の松尾フサ様からあの頃の新聞をお送り下さいました。

敵砲撃下、激闘八日

全員最後の突撃
軍属二千も運命を共に

大本營発表 (昭和十九年二月二十五日十六時)

クエゼリン島ならびにルオット島を準備せし約四千五百名の帝國陸海軍部隊は一月三十日以来来襲せる敵大機動部隊の熾烈なる砲撃下これと激戦を交へ二月一日敵約二ヶ師団の上陸を見るや、これを激撃し勇戦奮闘、敵に多大の損害を与えたる後、二月六日最後の突撃を敢行全員壮烈なる戦死を遂げたり。

映画、劇場け休業

帝都では歌舞音曲停止
クエゼリン、ルオット両島の戦死者英霊に心からの哀悼の意を表すため二十五日夜から約十日間、全国のラジオ演芸放送は娯楽的な番組を一切廃し、英霊の屍を越えて征く国民の士氣昂揚に資するもののみを選んで上演する。

また興行界でも二十六日は帝都をはじめ全国の劇場、映画館が一斉に休業するほか東京料飲組合でも二十五日から三日間警視庁管下全料飲、飲食店、待合等における歌舞音曲の停止を申合せ自粛のうちに敵必滅の誓を固くすることになった。

新聞を喜んだ勇士

クエゼリン島の想出
〔平手海軍報道班員記〕

純忠の血に染まる全員戦死のクエゼリン島に記者はかつて二ヶ月黙々として敵たる必勝の信念に包まれて東の涯の護りにつく勇士と労苦をともにしたことがある。飛行機から見下した島は珊瑚礁に白く砕ける波頭が緑の海に映えて堪らない情熱的な美しさであったが、事實は一歩上陸すれば山一つない平坦な地上には椰子が低く島を蔽ひ、灼熱の太陽は珊瑚の砕けた砂の道路を灼き尽していた。

警備隊宿舎の士官室で最初に盛った夕食は一品のそれも罐詰料理であるのに驚き、きけばほとんど野菜は育たず魚はほとんどが全身痺れる猛毒を持っているために食べられず内地からの給糧船も話し生料品はおよもつかないと言ってくれた。庭には僅かに頭をもたげた野菜のいるどりが兵隊さんの顔を綻ばせていた。しかも飲料水はスコールを水桶に溜めて使用する。

その朝洗面の折にコップに水を取ってぼうぶらが無数に泳いでいるのに面食った。この不良飲料水のために下痢患者が多くまた南洋の名物デング熱に悩まされているのであった。

午前三時には夜が明け七時ごろには太陽の猛射に眼がくらむ、或る夕方私は見張り兼信号所を訪れた櫓の二階の板張の居室が〇〇兵長以下〇〇名の勇士達の狭いながら楽しいわが家となり波高き太平洋を睨んで今日も明日も空と海ばかり不眠不休の蔭に隠れた涙ぐましい大東亜戦争の礎石となっていた。海水で歯を磨き顔を洗ひドラム罐に海水で湯をたてるとい聞くだに頭の下る労苦を味はっているのだった。

その折に写した写真の出た新聞を見た勇士達は雀躍して喜んでくれたが今は亡き英魂のたんたんたる心境が偲ばれて一入胸迫るものがある。

靖国神社秋季例大祭に参列して

木村 久子

昭和三十九年十月十八日今日は靖国神社秋季例祭の当日祭である。生憎の雨降りで残念。日曜日の街は朝も早いせいか車も少く静かである。九段坂を昇ると鳥居が見えて来る。靖国神社の参道も並木の落葉が雨にたたかれて寒そうである。両側の屋台の店もまだ閉まっている。午前九時筑波宮司以下神宮昇殿祭典が始まった。静まり返った靖国の社頭で消防庁音楽隊の演奏する音楽に身の引きしまりを覚えさせる。参列者は比較的老令の方が多い。多分我が子を御国のために捧げられこうして靖国神社にお詣りするのが唯一のお慰めかもしれないと思ったりする。九時三十分頃勅使御参向御本殿に進まれ天皇皇后陛下の御供物を御神前に供えられ御礼拝の後御下向。折から武蔵野音大生の鎮魂頌の合唱が靖国の森に静かに遠くこだまして行く。雨が段々とほげしくなってきた。風も出て来た様子。私達遺族も昇殿礼拝をする。最後に靖国神社崇敬者代表のお方の御挨拶あり。終戦後荒れ果てた靖国神社も現在では戦前にもまして復興し我々遺族としては大変うれし事だと思った。けれども私共としては是非共靖国神社は国家護持とゆう格好にして戴きたい。幸い総理大臣衆参両院議長も深く心を寄せておられる由につき一生懸命的にむかっている下生懸命の思い力づく感じだ。本年八月十五日国が行った慰霊祭は靖国神社では取り行はれませんでしたけど社頭に於て行はれたとゆう事は私達が考えても今迄よりは一歩前進したよろこばしい事だと思ひます。帰途につく頃には幸にも雨も小降りとなり神のお恵みかと思ひ謝し御霊安かれと念じつつ靖国神社にお別れをつけました。

クエゼリン島の砂が届きました

御希望の方に届きました

本会の篤志家として発会以来御力添え下さったアジア航測株式会社々員長谷川敏氏(自宅、東京都町田市高ヶ坂一七九六、高坂住宅A五三一号)は三十八年暮から昨三十九年五月に亘り、御職務の閑係から南洋諸島に出張され、クエゼリン島にも立寄りになりました。飛行機による御出張のために沢山の荷物はお持ちにもちかえり下さいました。又篤志家のお一人土屋太郎氏のもとに米人ウィリアムスさんからはクエゼリンの砂がとき本会に御寄贈下さいました。珊瑚礁らしい白い綺麗な砂

更に、地方の会員との連絡や、上京される方々との相談相手となり「クエゼリン島の今と昔」(環礎)の編集、発送事務など頗ほしい仕事を全部引受け、又、官庁方面との連絡交渉等もやって下さっております。

浮田御一家の貴い御苦労に對し、会員御一同に代つて厚く御礼申し上げると共に、今後共会の発展の推進力となつて頂きたいとお願ひする次第であります。

会員の皆様、お互が例えお顔やお名前を存じあげなくとも、肉親を同じ鳥同じ時に失つた者同志として何時までも心を通はせながらに生きぬきましよう。それが英靈に御安心頂くことになるのですから。

事務局だより

○明けまして、おめでとうございませう。筆者は三日午後朝香名誉会長に年賀の記帳を申しあげました。白金の迎賓館にお伺いしました。偶然本場に偶然、御一統御集りにて十六ミリ、御観賞の最中でありました。

映画と申しても、かつて御一家が御撮影の想い出の十六ミリアルバムであり、御団樂の御邪魔とは思ひましたが、お勧めにより拝見させていただきました。名譽会長、朝香相談役はじめ皆様お揃ひ御健康の御様子心から喜ばしく思いました。何巻か映されたあと音羽侯の一卷が上映されました。少尉の頃又中尉の頃快活な御健康なお姿を拝見しましたとき、本誌7頁の御

最期の様子が頭に浮び何ともおいたわしく、この御雰囲気からだけでも早くクエゼリン島の慰霊、収骨を実現しなくてはと意を固めました。

○昭和四十年二月六日の行事について

二十年祭のとき御話ありましたように昭和四十年は二十年祭のように大掛りな行事は計画しておりません。しかし有志が靖国神社に集り昇殿参拝をいたしたいと思ひます。神社に申込む都合もありますので参加御予定の方の御氏名を至急(一月二十三日迄) 本会あてお知らせ下さい。二月六日(土)は午後〇時三十分靖国神社北参集所にお集り下さい。一時三十分からは他の行事がありますのでおくれますとご一緒の参拝はできないと思ひます。

○お尋ねになったがそのまゝに二十二年祭について

二十年祭のとき本部のものに調査の依頼や、御注文をなさった方があります。あのとおりの状況でお聞きながらついでに忘れずそのままになったことが沢山あるかと思ひます。誠に申わけありませんでした。そんなことのある方は至急本会あてお知らせ下さい。

○諸調査について

戦没者在役中の履歴、恩給法や援護法のこと、叙位叙勲のことその他いろいろと戦死に関連し、お聞きになりたいことをお持ちの方があろうかと思ひます。本部ではできるだけ、この調査にお力添えいたしたいと思

いますので御遠慮なく御申越し下さい。

○今後の連絡について

環礎第一号はクエゼリン島、ルオット島、ブラウン島の戦没者遺族中任所判明の九千人の方全員にお送りしました。昨年の夏六千七百人の方全員にお送りの通知の中に「二十年祭に出欠の御回答のない方には今後の御案内はさしあげられないと思ひます」と書きましたが有志の御寄附が多かつたので再び全員にお送りすることができました。一つには二十年祭の様子を皆様に御承知せうけたくて本部役員のお承知をうけ全員にお送りすることになりました。しかし今後は財政的にこのようなことは無理と思ひます。これから先は、従来御連絡のとれている方と今後何かと御連絡をお寄せいただいた方の範囲にとどめたいと思ひます。本会の趣旨に鑑み会費や寄附金を送られたかどうかではなく、本部に連絡のある方即ち本会からの通知が確實に届く方に限りお送りしたいと思ひわけです。

○二十年祭のスナップ写真について

二十年祭の終つたあとアルバム或は写真帳を作製する計画のあることを、お知らせしました。しかし、費用の關係もあつて実際に至りませんでした。写真は百数十枚とれておりますので代表的のもの十枚を一組とし、焼増し、送料とも一五〇円でお頒けします。御入用の方は本会あて御注文下さい。

○クエゼリン島戦没者遺族会名簿の在庫について

右二〇冊ほど残部があります。昨年二月以後約一〇〇名の追加がありますので、名簿の加除訂正表は既に名簿をお送りした方には本日同封お送りしました。残部の二〇〇部には加除訂正表を添え、送料とも、一部一〇〇円でお頒けします。御入用の方は本部あて御注文下さい。

○戦記「クエゼリン島の今と昔」の在庫について

右若干の残部があります。將來は既刊のものに「ルオット島」「ブラウン島」の記事を加え再版の予定にしております。なお在庫品は、送料とも、一部一〇〇円でお頒ちします。御入用の方は本部あて御注文下さい。

○「環礎創刊号」の残部について

右若干の残部があります。御入用の方は、送料とも、一部五十円でお頒けします。御入用の方は本部あて御注文下さい。

○通常払込料金加入者負担の振替貯金用紙

右用紙が準備してあります。本会あて御送金の場合御便利と思ひます。御入用の方は御注文下さい。

○金沢市におけるクエゼリン島戦没者慰族会たより

昨年七月十日筆者は公用のため金沢市に出張の機会があつた。早く予定がきまつたので、予め石川県の本会全会員の方におしらせし会場その他は県の共同募金会にお願いしました。兼六公園入口近くの県婦人会館の

会場には五十人に余る方が県のすみずみからお集り下さいました。二十年祭のフィルム又テープなどを私の説明で御覧いただき、御聞きいただきました。クエゼリンの砂もさしあげました。午後の半日ではありましたが、何か身近な感じの雰囲気は定めし英靈もお喜び下さったことと心温まりました。名残つきぬ思いを残し夕刻閉会いたしました。

本会役員及び篤志家名簿

- | | |
|--------|--------|
| 名誉会長 | 朝香 鳩彦 |
| 顧問 | 石橋 滋山 |
| 相談役 | 朝香 孚彦 |
| 会長 | 林 茂清 |
| 副会長 | 加藤普佐次郎 |
| 副会長 | 古賀織之助 |
| 幹事(常任) | 浮田 信家 |
| 幹事(常任) | 佐藤 宗丕 |
| 幹事 | 萩原金次郎 |
| 幹事 | 井上 賀雄 |
| 幹事 | 高橋 貞夫 |
| 幹事 | 市川奈美子 |
| 幹事 | 木村 久子 |
| 幹事 | 小泉 文江 |
| 幹事 | 岡野 正文 |
| 監事 | 橋口 昭利 |
| 監事 | 有馬 成甫 |
| 篤志家 | 板垣 徹 |
| 篤志家 | 大野 克一 |
| 篤志家 | 瀬沼 光久 |
| 篤志家 | 土屋 太郎 |
| 篤志家 | 中島 昌彦 |
| 篤志家 | 成田喜代治 |
| 篤志家 | 長谷川栄次 |
| 篤志家 | 長谷川 敏 |
| 篤志家 | 林 幸市 |
| 篤志家 | 松平 永芳 |
| 篤志家 | 村岡 達志 |